岡山大学

埋蔵文化財調査研究センター報

第17号

1997年3月　発行

岡山大学
埋蔵文化財調査研究センター

〒700
岡山市津島中3丁目1番1号
TEL・FAX(086)251−7290
E-mail arcsk@cc.okayama-u.ac.jp



世界へ情報発信

ーセンター・ホームページ開設ー

ここ数年，「インターネット」ということばを，テレビなどのマスメディアにおいて目にしたり聞く機会が増えてきました。新聞社はニュースを提供したり，政党や自治体も情報提供の手段として使い始めるなど，地球規模での情報ネットワークが様々な分野で活用されています。

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターでも，平成8年の8月から試験的にホームページを開設しました。このホームページでは，センターの業務の概要をはじめ，発掘調査の成果やセンターで収蔵・保管している文化財資料のデータベースの公開などに関する情報の提供を行っています。現在までに2千人近くの皆様に御利用いただくなど，あらためて埋蔵文化財への関心の強さを感じるとともに，インターネットを利用した情報の公開や交換に限りない可能性を見いだせます。

センターでは，大学キャンパス内における遺跡の精密な調査を通して蓄積してきた発掘成果や文化財の情報公開に努め，学内から周辺地域，そして世界へというグローバルな研究・教育の進展に貢献すべく，21世紀に向けて調査研究に力を注いでいきます。

インターネットによる埋文センターの普及活動

ここでは，岡山大学埋蔵文化財調査研究センターで開設したホームページについて，紹介したいと思います。



写真1　ホームページ

埋文センターのホームページ

ホームページのメニュー画面（写真1）は，言わばホームページの入り口です。この入り口にあるメニューの項目ごとに部屋があり，さらに各項目の中に部屋があります。そして各部屋はそれぞれにリンクがはられていれば，自由に部屋同士を行き来することができるようになっています。現在，エントリーしている項目は次のとおりです。

「センターの紹介」（設置から今日までの歩みなどを紹介）。
「埋蔵文化財調査室のスタッフ」（スタッフの紹介）。
「埋文センターの刊行物」（刊行物の紹介）。
「岡山大学構内遺跡について」（津島岡大遺跡と鹿田遺跡の紹介）。
「埋文資料展示室」（展示施設の紹介）
「考古学画像情報データベース」（試験的な文化財画像データベースの一部を公開）。
「ニュース」（展示会や現地説明会など，センターの最新ニュースをお知らせします）。
「関連機関へのリンク」（考古学関連機関や博物館・美術館へのリンク）。

画像情報データベースの作成と公開

「埋文センターの刊行物」（写真２）や「考古学画像情報データベース」（写真３）など，関連する項目であれば相互にリンクがはられており，どのページからでも検索できるような全体が一つのデータベースとなっています。岡山大学のキャンパス内における遺跡の精密な調査を通して蓄積してきた膨大な発掘成果や文化財の情報の活用を推進するため，文化財画像データベースの試験的な運用を行っています。将来的には，データベースを基本とした情報の共有・他の研究分野での利用等による学際的研究の推進や，学内外での教育的活用に貢献できるようにしていきたいと思います。ぜひ一度，埋文センターのホームページにアクセスしてみて下さい（岡山大学埋蔵文化財調査研究センターホームページアドレス　http://www.okayama-u.ac.jp/le/arc/archome.html）。　（小林）

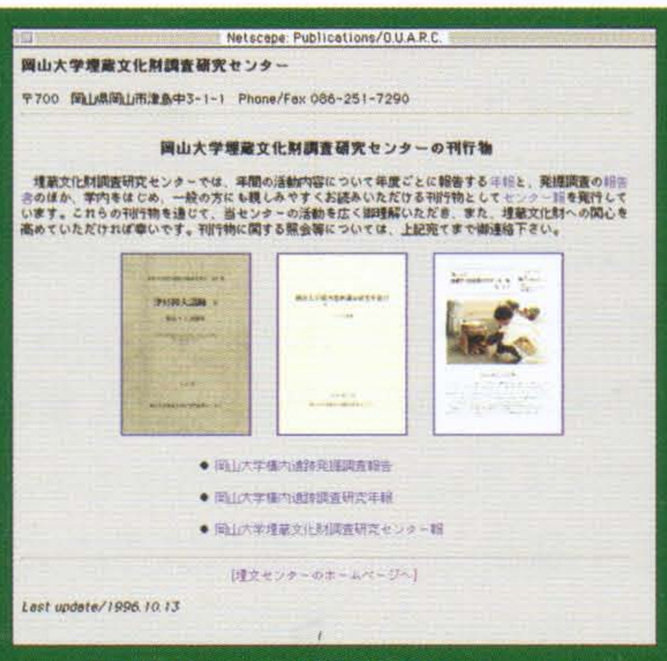


写真２　刊行物のページ



写真３　画像データベースのページ

１枚のカードに写真とデータをのせて検索できるようにしている。他のページにリンクしているので移動が自由である。今後は立体画像や動画なども試みていく予定。



展示会のようす

最も印象的だった平安時代の巨大な井戸枠(中央写真)。右写真は鹿田遺跡出土の弥生時代の遺物。当時の生活の様子がよくわかりました。

当センターでは1996年11月14日から16日の3日間，津島キャンパス学生会館を会場に，展示会を開催しました。展示内容はセンター報16号でも紹介したように，これまでの13年間にセンターで行ってきた発掘調査の出土遺物が中心です。また，発掘後の仕事内容や，遺物・遺跡の保存処理作業など，普段みなさんにはなじみの少ない部分もあわせて紹介しました。

3日間の開催期間中，展示会場に足を運んでくれた人の数は，総勢363名。これまでの展示会動員数を大幅に超える結果となりました。アンケートにお答え頂いたのはそのうちの153名。ここではこのアンケート結果を中心に展示会の様子をお伝えすることにしましょう。



意見の中で最も多かったのは，「また開催して欲しい」というものです。また「会場が狭い」「期間が短い」といった意見も多かったのですが，感想としては圧倒的に「おもしろい」「わかりやすい」との好意的意見が占めており，職員一同ほっとしている次第です。会場に来て頂いた方，貴重な御意見を頂いた方に改めて感謝申し上げます。

今後はさらに充実した内容を目指し，啓蒙活動にも努力していきたいと思います。(岩崎)



◇◆◇常設展示室のお知らせ◇◆◇

埋蔵文化財調査研究センター収蔵室２Ｆにて常設展示をおこなっています。

月曜から金曜　午前９時から午後４時

お気軽に見学にきて下さい。お待ちしています。

問い合わせ（086）251−7290

出現！縄文時代の生活址

津島岡大遺跡第17次調査の成果から



津島キャンパスでの発掘調査も17回目をむかえました。今回の調査は，環境理工学部の校舎を建設するために実施したものです。調査地点は，馬場の南半分にあたります。この付近では，第9次調査（生体機能応用工学科棟）や第15次調査（サテライト・ベンチャービジネス・ラボラトリー）などが行われており，縄文時代後期（約4000年前）を中心に当時の景観や人々の生活の様子が分かってきました。

4000年前の地形は・・・

縄文時代後期には，本調査地点は人が住むのに適した地形の高い部分（微高地）に位置していました。また，この微高地の北側と南側には河が流れていました。第15次調査地点では，この河道のほとりにドングリを水漬けで貯蔵するための穴が多数見つかっています。

住居見つかる

今回の第17次調査地点では，貯蔵穴を造った人たちの住居が見つかりました。住居は竪穴式住居といって，地面を径6ｍ・深さ0.5ｍほど掘りこんだものです。床面からは炉が見つかっています。その炉で煮炊きに使われた土器が，そこから倒れこむような状況で出土しました。また，この住居の周囲では，土器が多量に捨てられた穴や魚骨や小動物の骨の入った穴が多数見つかりました。

現地説明会のようす

11月16日には現地説明会を開催して，縄文時代の後期の集落の状況をみなさんに見ていただきました。当日は200名を越えるたくさんの参加者があり（上段の写真），考古学への関心の深さをあらためて感じました。今後も岡大構内遺跡の現地説明会を開催する予定ですので，ぜひ参加してみて下さい。（横田）

編集後記

昨年の秋には，久々の展示会がありたくさんの人に足を運んでいただきました。また，津島岡大遺跡第17次調査の現地説明会も同じ時期に開催され大勢の参加を得ました。いかに考古学への関心が高いかがわかったとともに，これからも今以上に岡大構内遺跡に関する情報を広く公開していく必要性を実感しました。冒頭で紹介した，インターネットの利用もこうした情報公開活動の一つです。まだまだ産声をあげたばかりですが，今後さらに進化していくものと思われます。ぜひ一度利用してみて下さい。（小林）